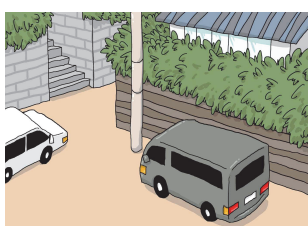


犯罪が起こりやすい場所

「(誰もが) 入りやすく、(周りから) 見えにくい場所は危険である」ということを体験的に学び、危険回避力を身につけさせる授業である。中学年の児童は、「その場所が安全か危険か」を判断する時、交通安全、生活安全、防犯安全など視点が混在するため、それを整理して、防犯安全のための学習として実施する。

① 住宅街の様子の子の絵を見比べる。

(05/05)



T:「この絵を比べて、安全なのはどちらでしょう。」

ほとんどの児童が、左側の絵が安全と答えた。

T:「では、それぞれ、どんなところが安全で、

どんなところが危険といえるのか、書いてみましょう。」

できるだけたくさんの理由を見つけるように声をかけた。

② 安全なところ、危険なところを出し合う。

(10/15)

【図 1】

安全なところ

「窓があって見通しがいい」「家がいっぱいある」「道が広い」

危険なところ

「車道にフェンスがない」「植木鉢が落ちたら…」「窓ガラスが割れたら…」

【図 2】

危険なところ

「木があって見通しが悪い」「階段が暗い」「カーブミラーがない」「溝にはまる」

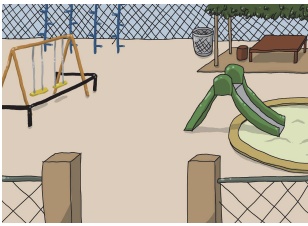
「人気がない」「車が 2 台あってぶつかりそう」

図 1 と図 2 では、「図 1 の方が安全」とは分かっているが、「図 1 にも危険がある」と見る子どもも多い。ここではそれも認める。

また、防犯の視点以外の生活安全などの点から安全・危険なところを指摘する子どもも多いが、最初はそれも認める。

③ 公園の様子絵 2 枚を見比べる。

(05/20)



T:「今度は、公園の絵です。この絵を比べて、安全なのはどちらでしょう。」
ほとんどの児童が、右側の絵が安全と答えた。

④ 安全なところ、危険なところを出し合う。

(10/30)

T:「では、それぞれ、どんなところが安全で、どんなところが危険といえるのか、書いてみましょう。」

安全なところ（図 3）

「フェンスから見える」「木がなく出入り口が見えやすい」「ベンチと遊具の間が遠い」「滑り台に砂がある」

危険なところ（図 4）

「木があって見通しが悪い」「ゴミが捨てられていない」「ゴミ箱に悪い人が隠れる」「木が折れたら危険」「雷が落ちて木が折れる」

ここでも、防犯以外の視点からも「安全なところ、危険なところ」を考えるが、それもよしとする。

④ 危険な理由を分類分けする。

(10/40)

T:「たくさんの理由が出てきましたが、その理由が違っていることは分かりますか。例えば、どれとどれでしょう。」

C:「雷が落ちると危険」と「車が 2 台あってぶつかりそうで危険」

C:「階段が暗くて悪い人が出てきそう」というのも違う。

T:「そうですね。これは危険の種類が違いますね。では、この危険に名前を付けるとすると、どんな名前をつけますか。」

C:「自然。」

C:「交通。」

C:「悪い人。」

T:「これで、いろんな危険があるけど、違うことがよく分かりますね。」

T:「いろいろな危険があることが分かりましたが、この安全マップの勉強では、悪い人から自分を守る安全について考えます。では、悪い人が原因で危険（安全）だという理由になっているものはどれですか。線を引きましょう。」

子ども達は、「窓があって見通しが良い」「階段が暗くて、暗い所から悪い人が出てくる」「悪い人が来ても逃げられない」など、ほぼ見分けることができていた。

⑤ 「入りやすく、見えにくい」のが危険な場所であることを知る。

(05/45)

T:「みんなが見つけた、悪い人が原因で危険な場所は、こんな風にまとめられます。」

T:「入りやすく、見えにくい場所は危険です。誰もが入りやすいところは、悪い人がみんなにすぐに近づいていたずらをします。そして、見えにくい場所は、悪い人がみんなにいたずらをしていても、周りから見えません。だから、危ないのです。反対に、誰もが入りやすく、周りからよく見える場所は安全です。」

⑥ 「ゴミが散らかっているのは安全か危険か」検討する。

(05/50)

T:「ゴミが散らかっているのは安全なのかな、危険なのかな。」

C:「ゴミがあるってことは、人が来ているっていうこと。だから、人から見えやすいので安全」

C:「ゴミがあるってことは、ゴミを片付けたり、管理したりする人がいないということだから、危険。」

先行実践を見ても、ゴミがあると「安全」ととらえる児童、「危険」ととらえる児童の両方がいる。この意見は、両方ともにもっともなところがあるので、指導者が教えるのがよい。

T:「両方とも、なるほどという理由ですね。でも、悪い人は、ゴミが散らかっている公園の方が好きようです。確かに人は来ているけれど、ゴミを片付けたり、管理したりするような人がいない、つまり、ゴミを片付けたり、管理したりしてくれるようないい人からは見えにくいということになるからです。」

小宮教授（立正大学）は、「ゴミが散らかっている＝地域の人の関心がない→心理的に見えにくい」として危険であると説明している。しかし、中学年だとこの説明はやや難しいので、こうした説明としている。

⑥ 公園の入口は1カ所の方が安全か、検討する。

(10/60)

T:「公園の左の絵では入口が1カ所ですが、入口は1カ所だと安全ですか、危険ですか。」

C:「1カ所しかなかったら、不審者に追いかけられた時に逃げられないから危険。」

T:「それでは、入口が何カ所かあれば、追いかけられても逃げ切れるのですね。そう思う人は手を挙げましょう。」

多くの子どもが、不審者に追いかけられても逃げられると言う。どの学年でも、このように考える児童がいるが、この考え方は児童の安全を考える場合、問題である。

T:「悪いことをしようと思っている大人が全速力で追いかけてきても走って逃げられそう？」

C:「自分たちの方が公園とかのことはよく知っているし、体力もあるから」

T:「そう？なかなか逃げられると思わないけど。」

T:「では、追いかけられたら捕まってしまうかも知れないと考えるのと、追いかけても、何とかすれば逃げられそうだと考えるのではどちらがいい？」

C:「油断するのはよくない」

T:「そうですね。それから、さっき、入りやすい場所は危険だと学習しましたね。入口が何カ所もあると、悪い人はどこからでも入って来ることができます。そして、みんなに悪いことをした後、悪い人はどこからでも逃げるすることができます。だから、入口が何カ所もあるとやはり危険です。」

子どもの「自分は不審者に追いかけても逃げられる」という考えは、なかなか変容しない。その考えに児童が強く固執するようであれば、危機意識の向上として「逃げられないと思って行動するのがよい」と押さえるのがよい。

T:「では、今度は、実際に「入りやすくて見えにくい、危険な場所」や「入りにくく、見えやすい、安全な場所」を外に出て、みんなで見つけてみましょう。」

① フィールドワークに出る。

(全 2 時間)

T:「フィールドワークでは、車などではなく、悪い人が原因で危険だという場所を見つけてみましょう。また、危険な場所ばかりでなく、安全な場所についても探してきましょう。」

子どもの安心感のためにも、「安全な場所」も探すよう声掛けする。そうでないと、学習後、「まちは危険だらけだった」という感想をもつ子どもが多くなってしまう。

② 安全マップを作成する。

(全 2 時間半)

T:「まず、模造紙に簡単に道を書きます。長さや道幅、方角が多少違っていても気にすることはありません。大事なのは、どういうところが安全で危険か分かるコメントです。道もコメントも書けたら、楽しい地図になるように飾りをつけても構いません。」

T:「コメントを書く時には、どうしてその場所が安全か、危険か、その理由を必ず書くようにしましょう。そして、危険な時には、危険なのでどうすればいいか、その方法を書けるとなおいいます。」

安全マップ作成では、何といても「コメント作成」が大切です。しかし、このコメント作成はなかなか大変な作業です。作成時に、個別指導をしっかり行う必要があります。コメントは「〇〇だから、入りにくくて危険」「〇〇だから見えやすくて安全」など「入りやすく、見えにくい」というキーワードを入れるようにして書かせるといいでしょう。